

## 国立大学法人徳島大学学長選考規則第14条に基づく

### 野地澄晴学長の業績評価結果

令和4年1月31日

国立大学法人徳島大学学長選考会議

国立大学法人徳島大学学長選考会議は、国立大学法人徳島大学学長選考規則第14条に基づき、令和3年11月29日開催の学長選考会議において、国立大学法人評価委員会の「業務の実績に関する評価結果」及び「監事監査報告書」を資料に、監事との意見交換及び野地学長作成の「学長の自己評価」に基づく学長との面談を行い、業績評価を実施した。

#### 総合評価

学長に求められる資質・能力が発揮されていること、中期目標・中期計画の達成に向けて学長の職務が適切に遂行されていることを確認した。

#### 特に評価する点

- 平成28年の学部改組・新設に続き、令和2年度には総合科学部、理工学部及び生物資源産業学部が接続する大学院を一本化した創成科学研究科修士課程を設置した。更には令和4年度の博士後期課程設置も認可されており、新しい構想の教育組織を整備した。特に、新設の生物資源産業学部に関しては、六次産業化を担う人材育成拠点を実質化し、完成させた。
- 外部資金獲得に強いリーダーシップを発揮し、地方大学・地域産業創生交付金対象事業では、産官学金連携で光関連産業の振興と専門人材育成を図り、地域産業と新たな人材の創出に取り組んだ。また、ポストLEDフォトンクス研究所の設置によって、研究、産官学連携及び人材育成が推進された。
- 経営者目線をもって様々な戦略を打ち出し、終始一貫して財源確保のために産官学連携に力を入れ、「大学産業院」や投資ファンド「株式会社産学連携キャピタル」の設立を実現させるなどの成果をあげた。
- 生物資源産業学部の設置で、徳島大学に石井キャンパスが加わり、また、県の施策と連携して石井、新野、鳴門に3つのサイエンスゾーン（アグリ、フォレスト、マリン）が整えられたことによって、大学の活動拠点を全県下に広げ、地域貢献や産官学連携による新しい大学の在り方を築いた。
- 大学の地域貢献として、学生の地元就職率の向上、リカレント教育、共同研究・受託研究及びベンチャー企業の育成など様々な事業に取り組み、日本経済新聞社が全国761の国公立大学を対象に実施した「大学の地域貢献度調査」の総合ランキングで第3位になるなど、高い評価を得た。
- 新型コロナウイルス禍にあっては、大学病院での重症患者受け入れ、新型コロナワクチン大学拠点接種での近隣大学・学校等の受け入れなど、極めて大きな地域貢献を行った。

# 学長の業績評価について

平成29年1月24日  
学長選考会議決定

国立大学法人徳島大学学長選考規則第14条に基づき、下記により、学長の業績評価を実施する。

## 記

### 1 業績評価の目的

学長選考会議決定の「学長に求められる資質・能力」が発揮されていること及び中期目標・中期計画の達成に向けて学長の職務が適切に遂行されていることを確認する。

また、改善すべき点がある場合には、学長に助言・提案を行う。

### 2 実施方法

国立大学法人評価委員会の「業務の実績に関する評価結果」及び「監事監査報告書」を資料に、学長作成の「学長の自己評価」に基づく学長との面談及び監事との意見交換を行い、総合的に評価する。

### 3 結果の通知及び公表

業績評価の結果は、学長に通知するとともに、大学公式ホームページで公表する。

### 4 その他

前項までに定めるもののほか、学長の業績評価に関し必要な事項は、学長選考会議の協議により決定する。

令和元年6月19日一部改正